

# 総選挙の結果について

## 日本共産党香川県委員長 中谷浩一

総選挙で日本共産党と白川よう子候補を支持してください。みなさん、コロナ危機のもとで大奮闘していただいたみなさんに心より感謝申し上げます。

全国的には、自公政権の継続を許したことは残念ですが、「自公政権から野党連合政権へ」と初めて政権交代を訴えてたかいました。これは全国62の選挙区で野党で一本化をはかった候補が、

選挙戦の中で自民党の有力候補をやぶるなど一定の効果もあげました。一方で、野党連合政権の意義や魅力を十分伝えきることができず、自公政治への批判が、自公政治の補完勢力である日本維新の会の伸長を招いた一因となりました。

者先頭にも身近な相談相手としても奮闘してきました。こうした声が届き、姿が見えたところでは共感が広がりました。

また、県内でも女性勝手連や職場や地域でさまざまなサボータの会が生まれ、創意的な活動が広がりました。また、多くの著名人の方が公然と支持を表明して下さるなど、これまでにない幅広いご支援をいただきました。

## 総選挙結果について

日本共産党の志位和夫委員長は1日、記者会見を行い総選挙の結果について表明しました。要旨は以下の通りです。



日本共産党は、今度の総選挙で「野党共闘で政権交代を始めよう」と力いっぱい訴えてきたが、自公政権の

継続を許したのは残念ですが、この戦いは最初のチャレンジャーとして大きな歴史的意義があった。全国各地で戦いの現場から、心が通う共闘が取り組まれ、多くの新しい連帯のきずなが広がったことは今後に生きる大きな財産。同時に野党共闘は今後の課題も残しました。とくに、野党が力を合わせて共通政策、政権協力の合意という共闘の大義、共闘の魅力を、さまざまな攻撃を打ち破って、広い国民に伝えきるといふ点で、十分とは言えなかった。伝えきれなかったこ

とが維新の会などの伸長という事態を招いた。比例代表は11議席から9議席へと後退し、大変残念な結果だ。得票は440万票から416万票へ、得票率は7.90%から7.26%へ後退した。私たちは、この間、昨年の党大会決定に基づき、党の自力をつける活動、世代的継承の活動に取り組んできた。この取り組みは途上にある。自力をつける活動を必ず成功させ、次の機会です必ず捲土重来を期していきたい。

は誠に残念であり、わが党の力不足によるものだと考えています。来年、日本共産党は党創立100周年を迎えます。「国民の苦難あるところ日本共産党あり」の

## 小池・山下氏 応援に駆けつける

日本共産党の小池晃書記局長が、選挙期間中の22日、衆院比例の白川容子さんの必勝のために高松市を、山下芳生副委員長が26日、三豊市と丸亀市で訴えました。

小池氏は、白川さんが医療現場から香川県議を

精神でがんばりながら、強く大きな党づくりをすすめていきます。そして来年の参院選挙や知事選挙など、政治をかえるために全力をあげる決意です。

れずにつらぬく」共産党を伸ばし、白川さんを何とかして国会へ送って」と力説していました。山下氏は、3区の候補だった尾崎淳一郎さんを応援。比例についても「共闘を瞳のように大事にする共産党を比例で伸ばしてください」と力説していました。



## シールアンケート10月に4回実施

民青同盟香川県委員会では10月の日曜日や平日の日に合計4回、学費値下げやジェンダー平等、雇用など政治に取り組んでほしいことを問うシールアンケートに取り組んでいます。

とを聞いていると伝えるとアンケートに答え「頑張れ」と激励しました。藤沢直人県委員長は「コールセンターで働くという人が、問うている項目がすべてわからないと答え、一つ一つを丁寧に説明していく中で、その人自身が政治にあきらめを持っているのではないかというふうに気づき、



共産党の政策ピラを渡したら『共産党のホームページを見てみる』という反

応に代わったのが印象的でした」と話しています。

## 観音寺市議選 7日告示 藤田さんが3期目挑戦

香川県観音寺市議選(定数20)は7日告示、14日投票でたたかわれます。新人も多く、24人25人が立候補する激戦です。日本共産党は、ふじた均候補(61)が3期目を目指します。この間の4年間の市政は、自校方式の給食について、パブリックコメントもせず、自校方式を残せという請願も否決して、大型の学校給食センターを計画。また伊吹島との市営航路を民営化させました。



藤田氏はこの間、市の水道取水口上流部に産廃処分場の建設計画が持ち上がった時「市民の水を守れ」と建設計画に反対し、テールマーク工場閉鎖の時には、雇用の確保を議会ごとに取り上げ、県などにも同様の要望を行いました。大型学校給食センターの建設中止を

## you気 りんりん

## 白川よう子

### 四国ブロック国政対策委員長

1日未明、衆議院四国比例ブロックの結果が出ました。今回の総選挙では「女性の衆議院議員が一人もない四国から女性を」と、無所属の県議や市議をはじめ無党派の方々各地で「勝手連」を結束し力強い応援をいただきました。党員や後援会の方々も日夜を分かたぬ大奮闘でしたが議席にとどきませんでした。

応援演説して下さったなかで「唯一の身内が先日孤独死した。貧困をなくすことが政治の大きな課題だ。白川さんにその仕事を託したい」と訴える女性。「白川さ

んの幼い時の家庭内DVの話に、同じ思いをした人がいるのだ」と父親からの虐待を語った青年。私自身も長い間このことを言えなかったことを語り合った。つらい思いを繰り返す社会であってはならない。全てが政治のせいではないが、多くの下地を政治が作っていることは確かだ。

全ての性暴力や家庭内暴力、虐待をなくす事はきれいに聞こえるかもしれない



今度の選挙戦で、そして4年間の候補者活動の中で多くの友人を得ることができました。大切な宝物を得た思いです。この絆を大切に、そしてたくさん寄せられた命と暮らしを守る願いの実現へとこれからは頑張り決意です。ありがとうございます。